

ぽれぽれ通信

いじめ撲滅PT

活動開始!

3・4月号
vol.63



学校現場のいじめ撲滅 プロジェクトチーム始動!

とせず、新たに文科省へ関係諸団体の意見もよく聞くように指示しつつ、党内に大学のガバナンス改革を議論するインナー会議を創設。そして、コロナによってこの2年間停止している留学生の問題については、部会で議題として取り上げること、事前にSNSで公表し、SNS版パブリックコメントを行うなど、今までにはない手法も取り入れつつ、部会長としてリーダーシップを発揮している。

昨年の11月に自民党の文部科学部会長に就任した山本は、矢継ぎ早に新たな試みを政策に打ち込んでいる。例えば、自民党初の児童生徒のいじめ、不登校、

自殺の問題に特化したプロジェクトチームの創設。また、大学のガバナンス改革について有識者会議から改革案が出されたことに対して部会としては了

今号では、自民党内に立ち上げた「学校現場のいじめ撲滅プロジェクトチーム」(以下、いじめ撲滅P.T.)について詳しく報告する。山本は、昨年の11月に文科部会長に就任して最初の部会の冒頭挨拶の中で、いきなり部会長としてプロジェクトチームの創設構想を発表した。それは、毎年、文科省が全国で悉皆

調査※1を実施している「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」が、いじめや不登校、そして、自殺の件数を報告し、去年より上がった、下がった、と一喜一憂しているだけでは、意味がないと言いつつ、自民党が本腰を入れていじめ、不登校、自殺に対して具体的な対策を打ち出すために党内にプロジェクトチームを立ち上げることを宣言した。

いじめ撲滅PTの 素早いキックオフ

宣言後、直ちに山本は、プロジェクトチームの座長などの役員人事に取り掛かった。そこで、近年、学校での様々な課題に対して法律の専門家である弁護士が学校と連携し、法的な視点から予防や解決を図っていくスクールロイヤー(School

Lawyer)制度を導入したことを踏まえ、弁護士でもあり、自民党神奈川県連の仲間でもある三谷英弘衆議院議員をいじめ撲滅PTの座長に指名し、昨年12月上旬には役員人事を全て終え、第1回目の勉強会も12月には行い、昨年内早々にいじめ撲滅PTのキックオフを果たしてしまいう早業を見せつけた。その模様



▲いじめ撲滅PTで議論をリードする山本

は地元紙である神奈川新聞(※冒頭写真)でも報じられたので、ご覧になった読者もおられるのではないだろうか。

今年に入ってもいじめ撲滅PTへの熱意とその仕事ぶりのスピードは、留まることを知らない。既に外部の関係諸団体や有識者からのヒアリングや意見交換の場を次々と設けている。例えば、市を挙げていじめ問題に取り組んでいる大阪府吹田市の教育委員会の教育センターからの独自の取り組みの説明を聴取し、今後の展開や課題について協議をしたり、いじめ問題に教育学や臨床心理学からのアプローチをされている関西外国語大学の新井肇教授から意見を聴取し、学問的、心理学的な側面での議論を行ったり、警察庁の担当部局から学校現場のいじめに対して警察の対応と取り組み

について聴取し、今後のあり方を議論したり、東京都児童相談センターの現場の職員の方々から現在の状況を聴取し、どのような対応をすべきかを議論するなど、コロナ禍において、対面が難しい場合は、オンラインを駆使するなど、活発な議論を展開している。

いじめ対策の 主な論点と課題

いじめ撲滅PTに参加している議員は、全員が、学校現場のいじめ、不登校、自殺に対して問題意識が高く、熱心な議論が交わされている。現状の主な論点は、①刑法や何かしらの法的に問題があるのであれば、法治国家である以上は、警察も学校であったとしても積極的に関わらなければならないか。それは、決して教員など学校関係者の教育の放棄には当たらないはずだ。②

被害者、加害者の両方に医学的アプローチが必要ではないのか。今までは、従来型の教育指導という形の解決方法を行って

来ていたが、ただ単に教育論や精神論で解決の糸口を見つけ出すのではなく、医学的な見地からも児童生徒を見て行く必要があるのではないか。内科医の校医だけでなく心療内科のような専門医の参画も必要ではないか。③加害者側の児童生徒には、出席停止処分を科すべきではないか。やってはいけないことを行った場合は、しっかりと罰するべきである。ただし、学校長の裁量で行うのではなく、適切な線引きを行い個人の職責において処分を下さなくとも制度として機械的に出席停止処分が出されるようにすべきではないか。そうでなければ、学校長だけに責任を負わせるのは酷ではないか。他方、出席停

止処分になれば、教育を受けさせる義務が果たせなくなるのではないか。

以上のように色々な論点があり、議論百出の状況である。しかし、議論は始まったばかりであり、今後も関係諸団体や有識者とヒアリングや意見交換を重ねていく予定である。従って、更に論点は増えていくことが予想される。本年の中頃には、具体的なアクションプランを打ち出した、と極めて野心的な考えを隠さない山本部長と三谷座長のいじめ撲滅PTの今後の活動を引き続き、本紙で報告していくので、期待を頂きたい。

※1、悉皆調査とは、調査対象の全てに調査を実施すること。全数調査とも言う。

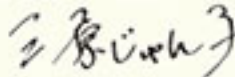
夏の参議院選挙 自由民主党公認決定! 三原じゅん子氏

メッセージ

参議院議員の三原じゅん子でございます。
私の議員生活も12年目の総仕上げの時期を迎えます。
皆様方から頂戴致しましたお力添えの賜物と、心より御礼を申し上げます。

この12年間、女性の健康に関する政策について誰よりも取り組んできたという自負がございます。菅義偉政権で拝命いたしました厚生労働副大臣時代には、HPVワクチン接種の積極的勧奨再開、不妊予防支援パッケージの策定、小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療への支援などを実現致しました。これからは人口減少問題を国的危機ととらえ、大胆な発想と幅広い観点から問題解決に向け取り組んで参ります。

今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

参議院議員・内閣府大臣補佐官 



三原じゅん子プロフィール

平成22年、第22回参議院議員選挙(全国比例区)にて初当選

平成28年、第24回参議院議員選挙(神奈川選挙区)にて2期目の当選

現在の役職

内閣府大臣補佐官、自民党二輪車問題対策PT座長

経歴

- 参議院厚生労働委員長
- 参議院消費者問題に関する特別委員長
- 自民党女性局長(4期)
- 厚生労働副大臣 ●自民党インターネット上の誹謗中傷・人権侵害等の対策PT座長

所属議員連盟

- 婚活・プライダル振興議員連盟 ●オートバイ議員連盟 ●モータースポーツ振興議員連盟 ●どうぶつ愛護議員連盟
- HPVワクチンの積極的勧奨再開を目指す議員連盟 ●不妊治療への支援拡充を目指す議員連盟 ●知的障がい者の明日を考える議員連盟 ●賃貸住宅対策議員連盟 ●ライブエンタテイメント議員連盟

夏の参議院選挙 自由民主党公認決定! 浅尾慶一郎氏

メッセージ

私が政界に身を置いて早いもので25年になります。掲げてきたのは「誰にでも何度でもチャンスのある社会を創る」。この志がブレたことはありません。ただ今取り組むべきは、コロナ禍の克服と景気の本格的な回復です。そして〔歳入庁〕を新設し抜本的な行政改革をめざします。〔人工光合成〕を実現し、地球環境問題解決にも取り組みます。その先には「誰にでも何度でもチャンスのある社会」の実現です。あさお慶一郎の底力にご期待ください。



自由民主党 神奈川県参議院選挙区第五支部 支部長 浅尾 慶一郎

浅尾慶一郎プロフィール

昭和39年2月11日生まれ 鎌倉市植木在住 妻と愛犬と共に暮らす。
外交官だった父の赴任先、アメリカ、カナダで少年時代を過ごす。
帰国後は栄光学園中学・高等学校を経て、東京大学法学部を卒業。日本興業銀行入行後、証券アナリストとして活躍。米スタンフォード大学経営大学院 (MBA) 修了。

参議院議員 平成10年初当選 **[34歳]** ~平成21年まで通算2期12年

衆議院議員 平成21年 当選 **[45歳]** ~平成29年まで通算3期 8年



駅で「ぼれぼれ通信」を
お配りしております
駅頭活動報告



「応援してます」
「頑張ってください」

「いつも読んでます」などなど、
本日も沢山のエールを頂きました。
皆様、誠に有難うございました！

朝の6:30～8:30までの2時間にわたり、4区内の
下表の駅で活動をさせていただいております。

※雨の日は靴と傘をお持ちの皆様が多いので、駅頭活動を控えています。

前回の「ぼれぼれ通信」配布数

1月・2月集計分

駅名	1月	枚数	2月	枚数	前月比
豆子駅	12日(水)	255	1月後半からは、浅尾慶一郎参議院選党公認候補予定者の駅頭活動の応援に徹しており、本人の活動は控えました。	—	—
豆子・葉山駅	—	—		—	—
鎌倉駅(東口)	—	—		—	—
鎌倉駅(西口)	13日(木)	224		—	—
大船駅(西口)	17日(月)	284		—	—
大船駅(モノレール口)	18日(火)	227		—	—
大船駅(東口)	—	—		—	—
大船駅(笠間口)	—	—		—	—
本郷台駅	—	—		—	—
港南台駅	—	—		—	—
	1月配布合計	990	2月配布合計	—	—

簡単にアクセス
できます！

Twitter Facebookは本人がやっています

専用のアプリをダウンロードして右のQR
コードを読み取りください。(iPhone除く)



Twitter



Facebook



HP

山本ともひろプロフィール

経歴

- 関西大学 商学部 卒業
- 京都大学 大学院 修士課程(法学)修了
- (財)松下政経塾 卒塾 (21期)
- 米国ジョージタウン大学 客員研究員、その後、会社員を経て
- 平成17年 衆院選 初当選
- 平成26年 文部科学大臣政務官・復興大臣政務官 就任
- 平成27年 オリンピック・パラリンピック大臣政務官 就任
- 平成29年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 平成30年 自民党 国防部長 就任
- 令和元年 防衛副大臣・内閣府副大臣 就任
- 令和3年 自民党 文部科学部長 就任

自由民主党 衆議院議員 (5期 13年)

神奈川4区(栄区・鎌倉市・逗子市・葉山町)
昭和50年(1975年)生まれ
46歳 鎌倉在住



分かりやすいと大人気!

国会見学案内実施中!

国会を山本ともひろと一緒に見学してみませんか?

「政治が身近に感じられた」「分かりやすく、楽しかった!」と大人気の見学ツアーは無料で行っています。詳細は下記の事務所まで、お気軽にお電話ください。



ぽれぽれ通信って何?



「ぽれぽれ」は、ケニアの公用語のスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意。私は、ケニア・タンザニア米国大使館同時爆破テロの現場(ケニア)に居合わせたのがきっかけで政治家を志しました。

一度に全てを変えることは無理でも、諦めず、ゆっくりでも少しずつでも政治を変えていきたい。そうしなければこの国は良くなるい…。そしてその活動を皆様にお伝えしていきたいという想いを込めて、この冊子を作っています。



山本ともひろ事務所リスト

- 本部事務所** 神奈川県鎌倉市大船1-6-6 大久保ビル3F
TEL:0467-39-6933 FAX:0467-39-6943
- 国会事務所** 東京都千代田区永田町2-1-2 第2議員会館 1110号室
TEL:03-3508-7193 FAX:03-3508-3623

令和4年(2022年)3月1日発行 第63号

※本誌は、隔月(1、3、5、7、9、11月)発行の機関誌です。バックナンバーについては上記事務所までご連絡ください。またHPにも掲載しておりますのでご覧ください。